

令和元年度第2回米子市総合教育会議録（概要版）

■日時

令和2年2月6日（木）13時から14時30分

■場所

米子市役所本庁舎5階 議会第1会議室

■議題

- (1) ICT教育と情報リテラシーについて
- (2) 健康教育について
- (3) コミュニティスクールについて

■出席者

市長 伊木 隆司

教育長 浦林 実

教育委員 金山 正義

教育委員 上森 英史

教育委員 荒川 陽子

■出席職員

総合政策部長 八幡 泰治

総合政策部総合政策課長 長谷川 和秀

総合政策部地域振興課長 奥田 晃巳

福祉保健部健康対策課長 清水 宏幸

教育委員会事務局兼教育総務課長 松下 強

教育委員会事務局教育総務課教育企画室長 後藤 京一

教育委員会事務局学校教育課長 西村 健吾

教育委員会事務局生涯学習課長 木下 博和

教育委員会事務局学校給食課長 山中 敦子

■傍聴者数

1人

■議題（1）ICT 教育と情報リテラシーについて

《事務局》

配布資料に沿って説明。

《伊木市長》

昨年 11 月に国が示した GIGA スクール構想は、本市の事業費が 7～8 億円程度となる事業。PC を通した様々な学習指導や、PC で回答する仕組みのテストの実施などについても国が主導していく構想が打ち出されており、ここで乗らない手は無いという方針。

《荒川委員》

日本の中で米子が一步たりとも遅れるわけにはいかない。地域間格差によって子どもたちが学ぶチャンスがなくしてはいけない。子どもたちは成長し、教育を受ける時期を選べないため、ぜひ進めてほしい。

《金山委員》

ぜひ実施してほしい。子どもたちがスマートフォンを持つようになっている状況で、個人差に対応するために、学校の PC はできるだけ早めに 1 人 1 台持たせたい。

《上森委員》

この機を逃すべきではない。社会では PC やタブレットを使わないと仕事ができなくなっており、子どもたちが将来大人になってこの国を支える時に、使いこなせないことがあってはならない。

《浦林教育長》

進めていこうと言っただけで大変ありがたいと同時に、責任の重さを感じている。PC 端末も自由に使えるという教員像が新たに求められている。教員のレベルを上げていく努力をしていかなければならない。

子どもたちが PC を使うと様々なことが起こるため、予防的にモラル教育をしっかりと積み重ねていくとともに、問題が起こってもきっちりと対応できるような準備が必要。子どもを取り巻く保護者や地域の方に、情報リテラシーをしっかりと守って活用するお手本を見せていただくことも期待していきたい。

《伊木市長》

学校の先生方のレベルの差があることは想定していた。地域の中でも提案していただける方がいらっしゃれば、参考にできるのではないかと。世の中全体で後押しできるようにしていきたい。

《荒川委員》

先生方のスキルアップがとても重要。加えて地域の力や PTA、家庭の後押し、家庭での環境の作り方などの後押しの配慮が必要。

《上森委員》

学校の先生たちは努力していて、しっかりとできている学校もある。そのような学校の先生に研修として市内を回ってもらえれば、全国の平均以上の水準に上がり、この取組も困難にならない。

《金山委員》

情報教育が進む超スマート社会の中で、子どもたちの根源として何が育たなければいけないかを考えて、人間教育をさらに進めていかなければいけない。

《浦林教育長》

教員の指導力について、県や西部地区の教育長とも話をしている、レベルを分けた研修をしようと思っている。西部地区、さらに県全体で取り組むと、教員の負担も軽減できる。

■ 議題（2）健康教育について

《事務局》

配布資料に沿って説明。

《伊木市長》

『むし歯予防コンプリート作戦事業』は歯科医師会からの要望がきっかけ。学校での歯科健診から、家庭で適切な歯磨きの指導がなされていないことがうかがえる。

高齢者の健康対策で、肉類、たんぱく質類をしっかりと摂ることが長寿とかなり因果関係があるということで、栄養指導の主流になっている。その前提が、歯がある程度丈夫であるということ。

そのような中で、児童、生徒の健康の根幹を成すものとして学校の指導の中でフッ化物洗口を始めた。この事業は始まったばかりで、学校の先生方のご理解はこれから。教育委員の皆さんにそのような話があった際には、事業の趣旨やなぜ事業を進めるかをぜひお話しいただきたい。

《荒川委員》

とてもありがたい取組。先生方のご負担はあると思うが、家庭としては応援していきたいし、引き続き継続していただきたい。学校で週に1回実施しても良い。家庭を巻き込むための声かけも重要になってくる。

《上森委員》

長寿命になるほど健康を守る方法の1つとして歯の健康は大切。市長自らこのような議題を出していただいている。この取組が計画どおり全校に広がるように実施していただきたい。

フッ化物洗口に関する動画のようなものを見て、子どもたちが楽しみながら取り組むことができる方法を考えてもらいたい。

《金山委員》

歯は健康や長寿のもとになると思うので、取組によるメリットや目的を大事にしていきたい。その手段として、自治連合会や PTA 連合会、校長会を通すなど、協力していただくための周知が必要。

《伊木市長》

市長部局の健康対策課でがん検診の様々な手続きや勧奨などを行っているが、受診後のフォローの内容を行政として発信できていないと反省している。がん教育のねらいは、検診でがんが見つかった時のアフターフォローや、事前に生活習慣の中である程度予防ができるということを子どもの頃から知っておいてもらうこと。

《金山委員》

当事者でなければわからないこと、知りたいことがたくさんある中で、最終的には残った家族のフォローが大事。

《上森委員》

新学習指導要領できめ細やかにがん予防をしていくことが明記されたということは、国としても、長寿社会の中でがん予防をしっかりとしていくということ。先生方の意見や反応などはどうか。

《事務局》

まだ文言が掲載された段階で、現場からの声はまだ聞こえてきていないのが現状。先生方に教科書が渡った時に何らかの反響があると思うが、教育委員会から積極的に情報提供をして準備を進めていきたい。

《浦林教育長》

がん予防が共通の学習テーマになったということは社会が変わったということ。子どもたちが正しく知って正しく向き合い、予防することや周りの人への接し方をしっかりと学ぶことは絶対に大事なこと。

■ 議題（3）コミュニティスクールについて

《浦林教育長》

今の時代は子どもを取り巻く環境や学校が抱える課題が非常に複雑化、多様化していて、学校と地域が共同、共に主体者となってやっていくことが必要。学校と地域住民が地域でどのような子どもを育てたいのか、何を実現していくのかという目標やビジョンを共有することが重要で、それを実際に動かすために、コミュニティスクールのかたちがとても合っているとされている。地域と学校が共同する姿を模索していきたい。

管理職に研修を受けてもらい、コミュニティスクール推進協議会を立ち上げて研修を進めている。全地域が一斉にではなく、体制が十分に整った地域から進めていきたい。

《事務局》

配布資料に沿って説明。

《伊木市長》

教育を取り巻く環境が変化している。コミュニティスクールは教育を支える理念自体で、改めて地域と共に関わっていくかたちであり、とても良い方向ではないか。

《金山委員》

地域、家庭、学校の目標の共有と、つながり合い、支え合いが、今後も課題になっていく。めざしていく方向は賛成。

《荒川委員》

本市の特性をいかして、地域の理解を得ながら周知していただき、進めていってほしい。

《浦林教育長》

コミュニティスクールは共助の世界に進んでいく、学校としての営みの1つ。公民館や学校が1つの核になりながら、学校のことは地域全体でという方向に行き着いていくことが理想的で、今後そのような社会になっていくと思う。

地域によって特殊性や違いがあるので、共通する部分の仕組みは相当緩く作っていく必要がある。じっくりとその地域の声を聞いて、地域の実態に合うように、地域の皆さんと一緒に進めていきたい。

《伊木市長》

負担ばかりが増えたということになっていけないため、最初の制度設計は教育委員会でしっかりと考えてもらい、良いかたちでスタートできるようにしてほしい。

《上森委員》

米子に合ったコミュニティスクールの仕組みづくりができれば。米子のこれからを背負う子どもたちをどう教育していくべきかという視点で進めて、参加してくださる方々が一緒になって長く続いていく組織になってほしい。

■ その他

《荒川委員》

学校の先生には、子どもと向き合う時間を一番大切にしていきたい。来年度からはプログラミング教育や英語教育などもあり、米子市は保幼連携など独自の取組が行われていて先生方はとても大変。市長にもぜひ、特別な場面ではなく学校の日頃の様子を見ていただきたい。

《上森委員》

子どもたちへの教育について、市長に考えていただいてとてもありがたい。人口が減ることが文化や教育の縮小につながる。住みやすいまちづくりを進めてもらえれば、子どもたちは素晴らしい郷土で教育してもらえてよかったと感じ、いつかまた米子に帰ってきて、人口が増えていくのではないか。